

さらなる!

# レファレンス力アップに向けた取り組み

りよく



## RIGP(アールワングランプリ)

図書館ラボプロジェクト

(Code for OSAKA×大阪市立図書館)



大阪市立図書館有志と Code for OSAKA とで実践している取り組みです。2020年9月から6回実施し、事例の紹介も行っています。

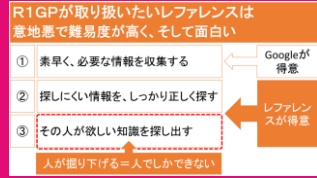


相談者を立て、実際にヒアリングを実施しながらレファレンスを実施します。観覧者は、レファレンスの様子を観察しながら付箋に気付きを記入していきます。レファレンス終了後、観覧者の気付きをフィードバックしていきます。



### RIGPがめざしていること

RIGPは相談者に寄り添うスキルを磨くため、正しい情報よりも相談者と一緒に探るテーマを設定します。



### RIGPでの可視化できること

- ヒアリングや報告のプロセスで、どう相談者の気持ちが変わるかを表現し、どういうやりとりが相談者の寄り添っているかを可視化しています。
- レファレンスの観覧者の気づきによるレファレンススキルを可視化しています。



自分のレファレンスを客観視される経験そのものが司書の楽しさにつながっています。



観覧者にいっぱい褒めてください。Pが1つあるならKは10くらいを目標に。そのためにはちゃんと細かくことを観てくださいと依頼。継続参加し、積極的に参加・学習するためには、大量のKeepが有益。

### 第7回は「レファレンス vs ChatGPT」

ChatGPTで良質なパフォーマンスを発揮するための質問や指示を出すことができれば、司書のレファレンスの幅はもっと広がるはず！

次回第8回は、ChatGPTを部下にしてレファレンスをやってみます！

## お試し★レファレンスバトル (東京都立中央図書館有志×大阪市立図書館自主学習会)

レファレンスのあるあるやお困りごとを雑談していた東京都立中央図書館のMさんと大阪市立中央図書館のTさんのつぶやきから実施することになりました。オンライン会議システムでつなぎ、これまでに2回開催しました。第1回は、百科事典を熟知した一般の方による共通の事前課題と当日課題、第2回は、これまでに受けたことのある郷土資料関係のレファレンスからそれぞれに事前課題として出題し、当日には共通の課題を実施しました。第2回では、最後に情報交換の時間も持ちました。

### 参加者の感想

- 同じ質問でも回答の仕方やプロセスが違うところが勉強になった。
- 他の地域の郷土資料を使ったレファレンスは土地勘がない分、ハードルが高いが、他府県のデジタルアーカイブを見る機会があって興味深かった。
- 交流の時間が持てて、レファレンス記録や選書の違いについて情報交換ができたことが良かった。



お試し事例レファ協に  
登録してみました